



**NEW**  
 ILLUSTRATED ENCYCLOPEDIA  
 OF  
 THE FAUNA OF JAPAN

Q95-64  
 3273

新日本動物圖鑑

〔上〕

北 隆 館  
 HOKURYUKAN

西門水産学  
 海系資料室

NEW  
ILLUSTRATED ENCYCLOPEDIA  
OF  
THE FAUNA OF JAPAN  
{ I }

HOKURYUKAN CO., LTD.

No.21, 3-chome, Kanda-nishikicho, Chiyoda-ku  
Tokyo, Japan 〒101

新日本動物圖鑑〔上〕

昭和40年1月25日 初版印刷  
昭和57年6月30日 8版発行

定価15,000円

著者 岡田 要  
代表 内田清之助  
内田 亨  
発行者 福田元次郎  
発行所 株式会社北隆館

〒101 東京都千代田区神田錦町3-21  
電話 03(291)3855 振替東京4-750

印刷所 中央精版印刷株式会社

©1982 HOKURYUKAN Printed in Japan

## 日本動物圖鑑初版序

博物分類学の泰斗と云われる「リンネー」が、嘗て書いたものの中に「名を知らねば物が覚えられぬ」(Nomina si nescis, perit et Cognitio rerum.)と云う文句がある。之は苟しくも動植物の研究に従事する者が絶えず感ずることで、どの方面を調べるにしても材料とする種類の名称が正確に知られていないと、恰も雲を掴む如くで、研究の結果を人に話すことも、報告に書くことも出来ぬ。「クラゲ」の一種に就いて調べた所によるとか、種名未詳の二枚貝で実験した所によれば、とか云うようなことでは後に至って他人が、その研究を再び繰り返して、結果の正否を確かめようとしても如何とも出来ず、従ってその様な報告は余り価値のないものと見做されても致し方がない。されば本当の研究に取り掛かる前に、先ず材料とする学名を確にして置かねばならぬが、之が日本では中々容易でない。稀な種類は暫く措くとして、普通のものだけは誰にでも自分でその学名が探し出せるような書物が出来て居たら、さぞ便利なことであろうとは我々が常に思うて居た所であるが、今日まで、その様なものは中々出来なかつた。元来我国は西洋諸国とは少し事情が違い、理科方面の学科は多くは明治維新後に遽に輸入せられ、特に動物学の如きはその前には殆ど何もなかつた。西洋諸国では、どの学問も順序を追うて一步一步発達して来た故、その途中には種類の名称を調べることに重きを置いた時代もあり、大概の種類は学名が知れて居て誰でも自分で採集して来た標本の学名を自分で探し出せるような便利な書物も沢山に出来て居る。所が我国では、外国で相当に進歩した学問の一番上の所だけを切り取って輸入した故、恰も三階だけが先ず出来上って、二階や一階が未だ出来て居ない家の如く全く畸形の状態にあるを免れぬ。即ち、最新最高の専門的研究の真似は出来るが足許に匍うて居る虫が何と云う虫であるやら、それを調べる方便は少しも整うて居ない。尤も明治維新後に六十年になる今日でも、未だに国立の天産博物館さえもないことを考えれば、之も無理でないかも知れぬ。私が日頃甚だ残念に思うて居たのは学名を知る方法がないために、熱心に採集を始めた初学者が忽ち失望して、終には研究も断念する如き場合が屢々あることである。折角一生懸命に採集して来た標本も何と云う種類であるかを知ることが出来ぬようでは張り合が無くして引続き採集する勇氣も失せ、一旦芽の出かかった研究心もそのため萎れて了うのは止むを得ない。私はこの事を非常に遺憾に思い、今より二十七八年前に動物学雑誌の編輯を引受けて居た頃同雑誌に毎月若干ずつの普通の動物の図説を掲げる計画を立て、石版色刷の図版を添え一カ年だけ継続した。若しもこの計画が今日まで継続して実行せられたならば今頃は動物の各部類の図説が揃うて大に便利になって居る筈であるが忽ち中絶した故、今日も尚その頃と同じく、魚類でも貝類でも、昆虫でも水母でも、それを調べて居る人の所へ持って行って尋ねる外には学名を知る方便がない。之は中等程度の学校の教員が特に苦痛を感ずる所である。尤も鳥類だけは内田清之助君の「日本鳥類図説」と、鷹司信輔君の「銅い鳥」とがあるので非常に助かって居る。この度北陸館から発行せられる「日本動物図鑑」は、私が前からは非出来るようにと希望して居たことが、或る程度に実現したもの故成るべく広くそれが世間に行なわれる様にと祈つて居る。素より日本産の動物の種類を尽して居る訳ではないが、普通のもは大概載つて居るから先ず大に便利な書物と云わねばならぬ。全く商売氣を離れた出版であるとは誰しも云い兼ねるであろうが、兎に角普通の出版業者が一寸手を出し兼ねる難物であることは、今日まで一度も、同様な書物の出版が企てられなかつたのを見ても明に知れる。私は執筆者の一人として、同書を營めることの出来ぬ位置に立つて居る故、表立つて世間に之を推薦することは差し控えるが前に述べた如き理由から、心中では大にその出来たことを喜び、且これによって初学者が自分で採集した標本の名称を自身で探し出し、尚進んで自然物の研究に興味を持つようになり、自然物から直接に得た知識と教訓とを楽しみ味う者が一人でも多くなる様にと切に希望して止まぬ次第である。(現代かな書きに改めた)

大正十五年十一月

丘 浅 次 郎

## 序

日本動物図鑑は昭和2年6月に初版が発行された。いま図鑑の専門書店として知られる北隆館にも、その以前には「牧野植物図鑑」があっただけである。同書の売れ行きがたいへんよかったので、大正14年の秋、私は当時の社長福田良太郎氏からその姉妹書として動物の図鑑を出したいが協力してほしい、という申出を受けた。動物の方は植物とちがって、それぞれ多くの専門学者の協力を必要とするが、果たしてそういう当時としては異例の出版が成功するだろうかと危ぶまれたが、福田社長の熱心さにひかされてこの動物図鑑出版の計画が決定されたのであった。ところが、はじめて見ると意外にもこの企画は諸学者の賛同を得て、第1級の分類学者22氏の共著として、発足後わずかに1年半の短期間に本書の第1版が発行されることとなった。しかも初版の1万部は出版前に全部予約済みというその頃としては異例の成功を勝ち得たのである。これはもっぱら執筆家諸氏が非常な熱心さで協力されたことと、当時全く類書がなく、ちょうど学界の要望に適合したためであったが、しかしその成功のかけには、少し手前味噌になるが、編集スタッフの努力も見逃がせないことであった。それは当時、大学を出て間もない新鋭内田亨、内田恵太郎両氏の助力を得たことで、同君等は研究の余暇をさいて、ときには深夜までもまむし酒の力をかりての努力のたまものといってよかった。その後、本書は年々多数の増版を重ねたが、その後、勿論わが国の動物分類学の進歩はいちじるしく、初版発行当時専門の学者を欠いていた部分にもそれぞれ専門家が出るようになったため、昭和15年には新たに増訂改版の発行が企てられ、55人という多数の学者を動員して新稿の製作に着手した。しかし、この計画は戦争の混乱期に遭遇して進行をはばまれ発行が遅れたが、昭和22年「改訂増補日本動物図鑑」として発行され今日に至った。その間、北隆館からは昭和32年から35年にわたって、「原色動物大図鑑」(4巻)の出版があったが、これは専ら各種学校の教授用参考書、または一般動物愛好家のためのもので、動物学専門学徒、または動物学者の参考用としての本書の需要は年々増加し、それらの利用者からはさらにアップ・ツ・デートな改訂版の要求も多く、ことに国立科学博物館々長岡田博士からはたびたび熱心に改訂版発行のおすすりもあったので、ここに今回の新訂版の発行を見るに至った次第である。今回の改訂に際して私はだいぶ前から学界を隠退し、最近の事情にも全くうといので、その企画編集等一切を、北大名誉教授内田亨博士におまかせすることになった。同氏はいま学界の長老でもあるし、また既述のように本書初版の編さんに当たられ、本書との関係も最も深い。たまたま北大を定年退職されて、居を東京に移されたので、以来本書の進行には多大の御配慮を煩わすことができた。本書がこのように立派にでき上ったのは全く同博士のおかげで感謝に堪えないが、ことに私としては「日本動物図鑑」がこのような形で有終の美を飾ることができたことに對し、一層の喜びを感じる次第である。

昭和39年12月

内 田 清 之 助

## 編集の任にあたって

昭和34年5月下旬に内田清之助、岡田要、内田亨および編集幹事の高島春雄氏の4人が同席に出席した北陸館側福田社長等の申出により会合して、日本動物図鑑の改訂版について協議し、その内容を全面的に自由に改良することとし、その題名を「新日本動物図鑑」とすることに決定、採録する動物の地域の範囲をきめ、外国産種を除き、幼生をみな各綱の概説中に編入し、排列の順序を原始的な動物から分化した動物へと、すなわち、概して下等の種より高等の種類へとすることにきめた。内田清之助、岡田要、内田亨が監修者となり、その中内田亨が編集長となつて、出版をすすめることになった。

同年7月中旬、同じ顔触れで会合し、高島氏の他に馬渡静夫氏に編集幹事を依頼することに決定、また一部の執筆者の人選をした。その後、数回の編集会議の後、昭和35年8月、動物部門別に世話役をお願いすることとし、柳生亮三、内田亨、内海富士夫、椎野季雄、馬渡静夫、時岡隆、波部忠重、松原喜代松、内田清之助、高島春雄、上野益三の11氏をえらび、承諾を得た。同年9月20日に東京に、これら世話役の諸君の会合を開き、編集会議を開いた。出席された方々は、柳生亮三、時岡隆、内海富士夫、椎野季雄、高島春雄、馬渡静夫、波部忠重、松原喜代松、上野益三、内田清之助、内田亨の11名であった。この会合で動物各部類の執筆者を世話役の推薦を中心として決定し、未決定の部類は各世話役に委任することにした。この席で、種名にイタリック、著者名にスモール・キャップを用いることに決定した。

その後、編集会を数回ひらき、また、学会の後の時間を利用して、執筆者の意見をきき、編集部から、各執筆者に、その担当部類の動物の日本産種の概略数、また執筆希望の数を問合せ、それを資料として昭和35年12月21日東京において、第2回世話人会議を開いた。出席者は内海富士夫、椎野季雄、高島春雄、時岡隆、波部忠重、松原喜代松、馬渡静夫、柳生亮三、内田清之助、内田亨の10名で、各部類の動物種類、概説の頁数、分類体系などを相談した。種類は各執筆者の希望数をほとんどそのまま承認することになったので、7,500種に達することになった。これで大綱はきまったので、後は編集会議を大体毎月開くことにし、随時、監修者の会合をひらき、現在に至っている。その中、とくに銘記すべきは、熱心に編集幹事の役割をしていられた高島春雄氏が、昭和37年5月31日に突然逝去されたことである。その後、波部忠重氏に編集幹事をお願いして現在に及んでいる。

新日本動物図鑑が、以前の動物図鑑と異なっていることは種類の増加、執筆者の増加の他に種名にイタリックを用いたこと、記載動物の排列の順が逆であることなどを挙げることができる。その理由は、種数も多くなって来たために、今までの啓発書の他に専門書の性質を多分におびることになったので、学術書らしく種名にイタリックを用い、命名法などに従ったわけである。次に通俗書では哺乳類や鳥類などがはじめに来るが、専門書では系統発生を重視して排列するために、原始的な動物から分化した動物へと移ってゆくのが通例である。また中学校・高等学校の教科書などがみなその順になっているので、一般の利用者とくに教育関係者からの要望が多かったことにもより、また執筆者および編集者から見ても、脊椎動物のように哺乳類、鳥類、爬虫類、両棲類、魚類と系統発生的にきちんと排列することができる場合はまだ差支えないのであるが、無脊椎動物では、例えば扁形動物の場合、条虫綱、吸虫綱、渦虫綱という排列にした書物は外国にはないし、渦虫綱が原始的な類を含んでいるとはいえ、条虫綱をそれより高等とすることはできない。無脊椎動物は脊椎動物のように系統発生がはっきりしていないので、その順序を逆にすると不合理になってくる場合が多い。それ故、専門書の性質をもって来たのみならず、本書では無脊椎動物の種が非常に増加しているのだから、通常学術書の部類排列をとったのである。また各動物部門の種数については世界的に知られている各動物種数に按分してきめたものではなく、また日本産種数に按分してきめたものでもない。本邦の動物種数のある部類の種数は、その部類に優秀な専門家が出れば、にわかに増加してゆく。それ故に、本書はその時の本邦分類学の趨勢をある程度示すものとしてよいと思う。その点で、各執筆者の執筆希望数を大体そのまま受け入れたのである。もちろん部類によっては、多少削減して御諒解を得た所もある。

旧日本動物図鑑が出版された時と比較すると、種数もずっと増加しており、種の同定も確実となつてきている。執筆者の中にはすでに物故された方々もあるが、これら研究者達の研究の結果が本書に蓄積されているわけである。旧初版の故丘浅次郎先生の「はしがき」はそのまま現在でも貴重であるので、そのままここに残すこととして初版以来ずっと主幹をつづけられていた内田清之助博士に前書きをお願いした。

今ここで第1巻が出版され、つづいて他の巻が出版される予定であるが、本書の出版に協力された執筆者の諸君に対して、監修者、編集部を代表して深い感謝の意を表わしたいと思う。

昭和39年12月

内 田 亨

## 凡 例

1. 本書に収録せる動物は本邦（北海道・本州・四国・九州・沖縄諸島）産に限った。

2. 動物種類は7,500余種に及ぶため、これを次の如く3分冊とし、次の順序に排列した。

上巻：原生動物，中生動物，腔腸動物，有櫛動物，扁形動物，紐形動物，袋形動物，曲形動物，星口動物，環形動物，触手動物

中巻：軟体動物，節足動物（昆虫綱を除く）

下巻：毛顎動物，有鬚動物，棘皮動物，原索動物，脊椎動物

3. 各動物門の冒頭には総説を，綱には概説を付して，各群の体制模式図による術語，形態，発生，生態，人生との関係等の理解を容易ならしめた。

4. 各動物の和名および学名は，各執筆者がもっとも妥当とせるものを選び，異名・別称の類は煩雑をさけるために原則として列記しないこととした。

また，和名はすべて平かなアンチック体をもって表わし，学名は属・種・亜種名はイタリック体，命名者名はスモール・キャップ体を用いた。

しかし，記載中に出てくる和名は，俗名，総称名も含め全部片かな，学名はイタリック体，人名および死んだ属名はローマン体を用いた。

また和名の未だつかぬ種については，学名そのものを日本語読みとし，片かなアンチック体（記載中では明朝体）で表わした。

5. 本書の上部柱には動物門名，綱名，要すれば亜綱名を，挿図横の縦柱には目名，亜目名，科名を表示して属種名との関連を明らかにした。

6. 記載は簡潔を旨とし，執筆者はそれぞれの記載末尾に明示した。旧図鑑（日本動物図鑑）の旧稿を新執筆者が加筆もしくは一部削除した場合等は旧執筆者名・新執筆者名を列記した。

7. 和名索引・学名索引については，それぞれの索引頁冒頭の凡例による。

編 集 部

# 新日本動物圖鑑〔上卷〕目次

原生動物 PROTOZOA	1
有毛根足亞門 SARCOMASTIGOPHORA	3
鞭毛超綱 MASTIGOPHORA	3
有色鞭毛虫綱 CHROMONADEA	6
黄綠鞭毛虫目 Chryomonadida	6
真黄綠鞭毛虫亜目	6
こがねいろひげむし科	6
もとよせひげむし科	7
はだかひげむし科	7
有殼鞭毛虫亜目	8
さやひげむし科	8
硅質鞭毛虫亜目	9
シリカひげむし科	9
変形鞭毛虫亜目	9
アメーバもとき科	9
群生鞭毛虫亜目	9
くさみどろむし科	9
鱗鞭毛虫目 Coccolithophorida	10
ココリンひげむし科	10
暗色鞭毛虫目 Cryptomonadida	10
かげひげむし科	10
渦鞭毛虫目 Dinoflagellida	10
無溝亜目	10
つのふたひげむし科	10
有溝亜目	11
ふたひげむし科	11
はだかおびむし科	12
ふたごはだかおびむし科	14
やこうちゆう科	14
めだまはだかおびむし科	14
やどりおびむし科	15
まくおびむし科	15
たまおびむし科	15
うずおびむし科	15
無色硅質鞭毛虫目 Ebriciada	19
みつわいろなしひげむし科	19
緑虫目 Euglenoida	19
緑虫亜目	19
みどりむし科	19

いろなしみどりむし科	22
太鞭毛虫亜目	22
ふとひげむし科	22
平鞭毛虫亜目	22
おながふとひげむし科	22
緑色鞭毛虫目 Chloromonadida	22
みどりひらむし科	22
藻鞭毛虫目 Phytomonadida	23
かずひげむし科	23
こなひげむし科	23
あかひげむし科	23
くみひげまわり科	23
おおひげまわり科	24
無色鞭毛虫綱 LEUCOMONADEA	25
襟鞭毛虫目 Choanoflagellida	25
えりひげむし科	25
有運動核目 Kinetoplastida	25
ボド亜目	25
ボドひげむし科	25
膜鞭毛亜目	26
まくむし科	26
有判鞭毛虫目 Retortomonadida	26
はらひげむし科	26
双子鞭毛虫目 Diplomonadida	26
むつひげはらむし科	26
骨膜鞭毛虫目 Trichomonadida	27
ほねまくむし科	27
多鞭毛虫目 Hypermastigida	27
髮鞭毛虫亜目	27
ながけかむり科	27
けかむり科	27
肉質虫超綱 SARCODINA	28
根足虫綱 RHIZOPODA	28
棒状根足亞綱 Lobosia	31
変形虫目 Amoebida	31
無毛変形虫亜目	31
アメーバ科	31
有殼変形虫目 Arcellinida	33
つばかむり科	33
かさねぐちつばかむり科	34

ふせつぼかむり科	35	つぶこまはりもどき科	58
うすかわかむり科	36	ふたえこまはりがい科	59
あやかむり科	36	ひらはらこまはりがい科	59
あみかむり科	36	ふちぎざはりがい科	60
なべかむり科	38	まわりくちひらはりがい科	60
糸状根足亜綱 Filosia	39	こまわりがい科	60
有殻糸状根足虫目 Gromiida	39	すじあなはりふさがい科	60
にせつぼかむり科	39	ごいしはりふさがい科	61
えぼしかむり科	39	ふたえこまはりもどき科	61
うろこかむり科	39	ひらまきはりがい科	62
ひらうろこかむり科	40	ゆびくみはりふさもどき科	62
ふせうろこかむり科	41	ひらはらこまはりがい科	62
ふたくちからかむり科	41	つぶこまはりがい科	63
からかむり科	42	せつきはりがい科	63
顆粒根足亜綱 Granuloreticulosia	42	こまあられいしがい科	64
有孔虫目 Foraminifera	42	放射棘虫亜綱	64
砂質殻有孔虫亜目	42	線孔目	64
ほしどろむし科	42	アストロロンケ科	64
くだどろむし科	43	有殻放射棘虫目	65
とっくりどろむし科	43	アカントロンケ科	65
しりぶとどろむし科	44	ドラタスピス科	65
じゅずどろむし科	44	ディブコスス科	65
うずどろむし科	45	多孔目	65
くるまどろむし科	45	コロズム科	65
くさびどろむし科	46	スパエロゾウム科	66
みへやくさびどろむし科	46	コロスパエラ科	66
ろとがたどろむし科	47	クユスポアエラ科	66
シリカどろむし科	48	アストロスパエラ科	67
はなどろむし科	48	ドルウバア科	67
白介虫目	48	パナルツス科	68
しらがい科	48	エウチトニア科	68
うずしらがい科	50	ピロニウム科	68
玻璃介虫目	50	ボルチキウム科	68
じゅずはりがい科	50	単孔目	69
ふさはりがい科	51	アカンソデスマリア科	69
たまうきがい科	52	セトビリウム科	69
たまはりがい科	53	セトボルミス科	69
すずうきがい科	54	テオビリウム科	69
ねじりはりふさがい科	54	テオボルミス科	70
ふたすじはりふさがい科	54	スチココリス科	70
みすじはりふさがい科	56	三孔目	71
くびみすじはりふさがい科	56	アウロスバエラ科	71
ひらはらこまはりがい科	57	チャレンジエリア科	71
こまあられいしがい科	58	メドウセツタ科	71
すじはらこまはりがい科	58	太陽虫亜綱 HELIOZOA	72
		無殻太陽虫目 Actinophryida	72
		はだかたいようちゅう科	72
		肉質太陽虫目 Centrohelida	72



はりたいうちゅう科……………72	スパンディム科……………91
有殻太陽虫目 Desmothoracida ……73	メタシスチス科……………91
かごめたいうちゅう科……………73	ディディニウム科……………91
<b>真孢子虫亜門 EUSPORA</b> ……74	コレプス科……………92
<b>晩生孢子虫綱 Telosporea</b> ……76	アクチノボリナ科……………93
<b>真グレガリナ目 Eugregarinida</b> ……76	ホロフィルヤ科……………93
ウロスボラ科……………76	側口族 ……94
レクディナ科……………76	アンフィレプス科……………94
セファロイドフォラ科……………76	トラケリウス科……………96
ステノフォラ科……………76	ロクンデス科……………96
グレガリナ科……………77	後口族 ……96
スチロセファルス科……………77	ナスラ科……………96
ダククロフォルス科……………78	クラミドドン科……………100
アカンソスポラ科……………78	ディステリア科……………102
アクチノセファルス科……………78	<b>毛口目 Trichostomatida</b> ……103
<b>シゾグレガリナ目 Schizogregarinida</b> ……79	ブラギオビラ科……………103
オフリヨシスチス科……………79	ゾウリムシ科……………103
シゾシスチス科……………79	コルボダ科……………104
<b>真球虫目 Eucocciidida</b> ……79	エントリビディム科……………105
エイメリア科……………79	イソツリカ科……………106
<b>球虫亜綱 COCCIDIA</b> ……………79	<b>漏斗目 Choanotrichida</b> ……106
血虫亜目……………80	スピロコナ科……………106
プラスモディウム科……………80	<b>吸管虫目 Suctorida</b> ……106
ヘモプロテウス科……………80	デンドロコメテス科……………106
<b>略孢子虫綱 HAPLOSPOREA</b> ……81	アチネタ科……………106
ピロプラズマ目 Piroplasmida ……81	エフェロタ科……………107
バベシア科……………81	ボドフィルヤ科……………107
<b>住肉孢子虫目 Sarcosporida</b> ……81	ディスコフィルヤ科……………107
住肉孢子虫科……………81	<b>無口目 Astomatida</b> ……108
<b>極囊孢子虫亜門 CNIDOSPORA</b> ……82	イントシュエリナ科……………108
<b>極囊孢子虫綱 Cnidospoidia</b> ……84	<b>膜口目 Hymenostomatida</b> ……108
<b>粘液孢子虫目 Myxosporidia</b> ……84	フロントニア科……………108
ワルデイ科……………84	テトラヒメナ科……………110
ケラトミクサ科……………84	オフリヨグレナ科……………111
クロロミクスム科……………84	ブレウロネマ科……………111
ミクソゾマ科……………85	フィラステル科……………112
ミクソボルス科……………86	<b>触口目 Thigmotrichida</b> ……112
テロハネルス科……………86	コンコフチルス科……………112
ミキンジウム科……………87	ヘミスベイラ科……………113
ミクソゾマ科……………87	ヒステロキネタ科……………114
<b>微孢子虫目 Microsporidia</b> ……87	<b>周毛目 Peritrichida</b> ……………114
ノゼマ科……………87	オフリディウム科……………114
<b>纖毛虫亜門 CILIOPHORA</b> ……88	エビステリス科……………114
<b>纖毛虫綱 CILIATEA</b> ……88	ボルチケラ科……………115
<b>全毛亜綱 HOLOTRICHIA</b> ……91	バジニコラ科……………116
<b>裸口目 Gymnostomatida</b> ……91	
前口族 ……91	

ラゲノフリス科.....	116	中生動物 MESOZOM .....	137
ウルセオテリア科.....	116	桑実綱 MORULOIDEA.....	137
旋毛亜綱 SPIROTRICHIA .....	117	菱形目 Rhombozoa (二胚虫目Dicyemida) 137	
異毛目 Heterotrichida.....	117	にはいちゅう, あふりいかにはいちゅ	
バランチディオウム科.....	117	う, アメーボフリア, ネレスハイメリア	
ブルサリア科.....	118	直遊目 Orthonectida .....	137
コンジロストマ科.....	118	海綿動物 PORIFERA .....	138
リクノフォラ科.....	118	石灰海綿綱 CALCAREA .....	141
メトプス科.....	119	等腔目 Homocoela .....	141
ペリトロムス科.....	119	あみかいめん科.....	141
ブラギオトマ科.....	119	異腔目 Heterocoela.....	142
スピロストムム科.....	120	ミンチネラ科.....	142
らっぱむし科.....	122	けつぽかいめん科.....	142
少毛目 Oligotrichida .....	123	ヘテロピア科.....	143
ハルテリア科.....	123	グランチ科.....	144
ストロビリジウム科.....	123	おんさかいめん科.....	146
有鐘纖毛虫目 Tintinnida .....	124	六放海綿綱 HEXACTINELLIDA .....	146
ふでずつからむし科.....	124	両盤目 Amphidiscophora .....	146
すなからむし科.....	124	おきなかいめん科.....	146
とっくりからむし科.....	125	ほっすがい科.....	147
ふくろからむし科.....	126	六放星目 Hexasterophora .....	147
かんむりからむし科.....	126	きぬあみかいめん科.....	147
つりがねからむし科.....	127	しんせいあみかいめん科.....	147
こつぶからむし科.....	127	たごあしかいめん科.....	148
ひとえからむし科.....	127	しょうろかいめん科.....	148
すじからむし科.....	128	かいろうとうけつ科.....	148
やりからむし科.....	128	きのこかいめん科.....	150
つばからむし科.....	128	ロッセラ科.....	150
まどからむし科.....	129	尋常海綿綱 DEMOSPONGIAE .....	151
くだからむし科.....	129	四放海綿目 Tetractinellida .....	151
エントディニオモルファ目		アンコリナ科.....	151
Entodiniidmorphida .....	130	ちょうぜちかいめん科.....	152
オフリオスコレックス科.....	130	いしかいめん科.....	152
櫛口目 Odontostomatida .....	130	まるがたかいめん科.....	153
エバルキス科.....	130	はりはりかいめん科.....	154
下毛目 Hypotrichida .....	131	硬海綿目 Hadromerina .....	154
オキシツリカ科.....	131	ばんかいめん科.....	154
ユウプロテス科.....	133	こるくかいめん科.....	155
アスピディスカ科.....	135	テチス科.....	156
纖毛虫付属.....	136	磯海綿目 Halichondrina.....	156
オパリナ類 Opalinida .....	136	ちゅうじくかいめん科.....	156
原生動物付属.....	136	いそかいめん科.....	157
トキノプラズマ類.....	136	うすかわかいめん科.....	158
		多骨海綿目 Poecilosclerina .....	158

こぼねかいめん科……………	158	はなくらげもどき科……………	191
えだねかいめん科……………	159	やわらくらげ科……………	191
わかえだかいめん科……………	159	くろめくらげ科……………	192
ねんえきかいめん科……………	160	うみさかずきがや科……………	192
はりかいめん科……………	160	こもちくらげ科……………	196
やすりかいめん科……………	161	まつばくらげ科……………	196
テダニア科……………	161	このはくらげ科……………	197
単骨海綿目 Haplosclerina ……	162	おわんくらげ科……………	197
ざらかいめん科……………	162	ひめこつぶがや科……………	198
くさりかいめん科……………	163	こつぶがや科……………	199
かわなしかいめん科……………	163	つりがねがや科……………	199
たんすいかいめん科……………	164	きせるがや科……………	199
角質海綿目 Keratosa ……	166	つつうみしば科……………	201
もくよくかいめん科……………	166	うみしば科……………	201
<b>腔腸動物 COELENTERATA ……</b>	<b>167</b>	はねがや科……………	207
ひどろ虫綱 HYDROZOA ……	169	淡水水母亜目 Limnomedusae ……	211
ひどろ虫目 Hydroida ……	172	モエリシア科……………	211
花水母亜目 Athecata = Anthomedusae…	172	はながさくらげ科……………	211
ひどら科……………	172	まみずくらげ科……………	212
おおうみひどら科……………	173	硬水母亜目 Trachymedusae ……	213
くだうみひどら科……………	175	いちめがさくらげ科……………	213
はしごくらげ科……………	175	おおからかさくらげ科……………	214
はおうみひどら科……………	176	にちりんくらげ科……………	215
たまうみひどら科……………	176	つづみくらげ科……………	215
えだあしくらげ科……………	178	擬珊瑚目 Stylasterina……………	216
おおたまうみひどら科……………	178	擬珊瑚科……………	216
えだうでうみひどら科……………	179	管水母目 Siphonophorae ……	220
せんじゅうみひどら科……………	179	鐘泳亜目……………	222
うみえらうみひどら科……………	179	ひとつくらげ科……………	222
やぎもどきうみひどら科……………	180	あいおいくらげ科……………	222
くらげ科……………	180	ふたつくらげ科……………	223
たまくらげ科……………	181	かどなしふたつくらげ科……………	226
うみひどら科……………	182	ばていくらげ科……………	226
えだくらげ科……………	184	胞泳亜目……………	226
しみこくらげ科……………	185	ようらくくらげ科……………	226
えぼしくらげ科……………	185	ばれんくらげ科……………	227
さかなやどりひどら科……………	187	アントフィザ科……………	228
えだうみひどら科……………	188	ロダリア科……………	228
えだくだくらげ科……………	189	囊泳亜目……………	228
きたかみくらげ科……………	190	ぼうずにら科……………	228
かみくらげ科……………	190	かつおのえぼし科……………	229
軟水母亜目 Thecata = Leptomedusae ……	190	盤泳亜目……………	229
ほそがや科……………	190	ぎんかくらげ科……………	229
		かつおのかんむり科……………	229
		鉢水母綱 SCYPHOZOA ……	230

十文字水母目 Stauromedusae	232	とげやぎ科	249
あさがおくらげ科	232	ふたやぎ科	250
ながあさがおくらげ科	232	ふとやぎ科	250
じゅうもんじくらげ科	233	むちやぎ科	251
立方水母目 Cubomedusae	233	きんやぎ科	252
あんどんくらげ科	233	おおきんやぎ科	252
冠水母目 Coronatae	234	とくさやぎ科	253
えふいらくらげ科	234	海綿目 Pennatulacea	254
くろかむりくらげ科	234	うみさぼてん科	254
ひらたかむりくらげ科	234	とげさぼてん科	254
羽水母目 Pteromedusae	235	あいおいさぼてん科	255
ぶらぬらくらげ科	235	むちうみえら科	255
旗口水母目 Semeostomae	235	つくしうみえら科	255
おきくらげ科	235	ふたごうみえら科	255
ゆうれいくらげ科	236	ふさうみえら科	256
ウルマリス科	237	やなぎうみえら科	256
みずくらげ科	237	うみえら科	257
根口水母目 Rhizostomae	238	とげうみえら科	257
いぼくらげ科	238	六放珊瑚亜綱 HEXACORALLIA	258
たこくらげ科	238	いそぎんちゃく目 Actiniaria	260
びぜんくらげ科	239	むしもどきぎんちゃく科	260
花虫綱 ANTHOZOA	240	ながいそぎんちゃく科	261
八放珊瑚亜綱 OCTOCORALLIA	240	ほうざわいそぎんちゃく科	262
根生目 Stolonifera	242	およぎいそぎんちゃく科	262
はなごけ科	242	いわねいそぎんちゃく科	263
はなづた科	242	アリシア科	263
くださんご科	243	うめぼしいそぎんちゃく科	263
小枝目 Telestacea	243	はなぶさいそぎんちゃく科	266
こえだ科	243	けいとういそぎんちゃく科	266
はなのえだ科	243	はたごいそぎんちゃく科	266
海鶏頭目 Alcyonacea	244	フィマンツス科	267
うみあざみ科	244	アクティノストラ科	267
うみとさか科	244	パラクティス科	267
ちちみとさか科	246	ホルマシス科	268
くだやぎ科	247	サガルシア科	268
共莖目 Coenothecalia	247	ひだべりいそぎんちゃく科	269
あおさんご科	247	たてじまいそぎんちゃく科	269
海楊目 Gorgonacea	248	うすあかいそぎんちゃく科	269
骨軸亜目	248	石珊瑚目 Scleractinia	270
うすかわやぎ科	248	アストロセニア亜目	272
ひらやぎ科	248	アストロセニア科	272
さんご科	248	タムナステリア科	272
いそばな科	248	やさいさんご科	272
とくきもどき科	249	みどりいし科	273
全軸亜目	249	くさびらいし亜目	275

アガシリア科	275
シデラストレア科	275
くさびらいし亜目	276
くさびらいし科	276
ミクラパシア科	277
はまさんご科	277
きくめいし亜目	278
きくめいし科	278
リザンギア科	281
びわがらいし科	282
さざなみさんご科	283
おおとげさんご科	283
うみばら科	284
アンテミフィリア科	285
ちょうじがい亜目	285
ちょうじがい科	285
せんずがい科	291
きさんご亜目	292
きさんご科	292
砂巾着目 Zoanthidea	297
すなぎんちゃく科	297
角珊瑚目 Antipatharia	299
はねからまつ科	299
うみからまつ科	299
花巾着目 Ceriantharia	301
はなぎんちゃく科	301

## 有櫛動物 CTENOPHORA ..... 302

有触手綱 TENTACULATA	303
風船水母目 Cydippida	303
エウクロラ科	303
てまりくらげ科	303
へんげくらげ科	303
兜水母目 Lobata	304
かぶとくらげ科	304
つのくらげ科	304
ちょうくらげ科	304
あかだまくらげ科	304
帯水母目 Cestida	305
おびくらげ科	305
扁櫛目 Platyctenea	305
くしひらむし科	305
くらげむし科	305
ことくらげ科	306

やどりくしくらげ科	306
瓜水母目 Beroidea	306
うりくらげ科	306

## 扁形動物 PLATHELMINTHES ..... 307

渦虫綱 TURBELLARIA	309
無腸目 Acoela	311
コンボルタ科	311
棒腸目 Rhabdocoela	312
カテスラ科	312
ステノストムム科	313
マクロストムム科	313
たるひめうずむし科	314
あかひめうずむし科	314
メノストムム科	314
ギラトリックス科	315
エクタリエラ科	315
異腸目 Alloecoela	315
ホフステニア科	315
プロリンクス科	316
ブラギオストム科	316
ボトリオプラナ科	317
三岐腸目 Triclada	317
プロクロデス科	317
プラナリア科	319
デンドロコエルム科	320
リンコデムス科	321
こうがいびる科	321
ゲオプラナ科	322
多岐腸目 Polyclada	322
ジスコケリス科	322
すちろひらむし科	323
やわひらむし科	324
まるひらむし科	325
つのひらむし科	326
アビディオプラナ科	326
にせすちろひらむし科	327
おびひらむし科	327
ペリケリス科	327
ポニニア科	328
にせつのひらむし科	328
エウリレプタ科	329
いろひらむし科	330
ほそひらむし科	330

吸虫綱 TREMATODA .....	331	スピロルキス科 .....	355
単生目 Monogenea .....	334	ブラギオルキス科 .....	356
単後吸盤亜目 .....	334	イソパロルキス科 .....	357
ギロダクテルス科 .....	334	ヒルディネラ科 .....	357
ダクチロギルス科 .....	334	プロストゴニムス科 .....	357
モノコチルス科 .....	335	アカントコルプス科 .....	358
カブサラ科 .....	335	後嚥吸虫科 .....	358
多後吸盤亜目 .....	336	二腔吸虫科 .....	359
ポリストマ科 .....	336	ミクロファルス科 .....	359
マゾクラエス科 .....	336	クリプトゴニムス科 .....	360
ディスココチレ科 .....	336	異形吸虫科 .....	360
マイクロコチレ科 .....	337	肺吸虫科 .....	361
ダイクリドフォラ科 .....	337	テロルキス科 .....	361
ガスツロコチレ科 .....	337		
ヘクソストマ科 .....	338	<b>条虫綱 CESTOIDEA .....</b>	<b>362</b>
楯吸虫目 Aspidogastrea .....	338	<b>単節亜綱 CESTODARIA .....</b>	<b>365</b>
楯吸虫科 .....	338	葉片条虫目 Amphilinidea .....	365
二生目 Degenea .....	338	葉片条虫科 .....	365
腹口亜目 .....	338	円杯条虫目 Gyrocotylidea .....	365
ブケファルス科 .....	338	円杯条虫科 .....	365
前口亜目 .....	339	<b>真正条虫亜綱 EUCESTODA .....</b>	<b>365</b>
右嚥吸虫科 .....	339	四葉目 Tetraphyllidea .....	365
ディプロストマ科 .....	339	吸葉条虫科 .....	365
住血吸虫科 .....	340	吸鉤条虫科 .....	367
双口吸虫科 .....	340	吸頭条虫科 .....	368
アロクレアディウム科 .....	341	盃頭条虫科 .....	369
アチギア科 .....	343	四物目 Tetrarhynchoidea .....	370
ストミロツレマ科 .....	344	二葉吻条虫科 .....	370
レキトデンドリウム科 .....	344	槌頭条虫科 .....	370
ノトコチルス科 .....	345	触手頭条虫科 .....	371
ユウコチルス科 .....	345	花頭条虫科 .....	371
ブラキラエマ科 .....	346	毛吻条虫科 .....	371
肝蛭科 .....	346	羽葉条虫科 .....	372
カンブラ科 .....	346	擬葉目 Pseudophyllidae .....	372
クリノストマ科 .....	347	両杯条虫科 .....	372
棘口吸虫科 .....	347	三尖葉条虫科 .....	372
キプトコチルス科 .....	349	摺吸葉条虫科 .....	373
キクロコエルム科 .....	349	棘莖条虫科 .....	375
アツカクラディウム科 .....	350	盤頭条虫科 .....	375
フェロディストムム科 .....	350	胡桃葉条虫科 .....	375
ゾオゴヌス科 .....	351	裂頭条虫科 .....	376
モノルキス科 .....	352	円葉目 Cyclophlloidea .....	378
ヘミウルス科 .....	352	四吸条虫科 .....	378
ディディモゾーン科 .....	354	丁鉤条虫科 .....	378
ゴルゴデラ科 .....	355	裸頭条虫科 .....	380
		中殖条虫科 .....	381
		多嚥条虫科 .....	381

膜様条虫科	382	こがたわむし科	409
条虫科	385	どろわむし科	410
無腔孔条虫科	387	すじわむし科	411
<b>紐形動物 NEMERTINEA</b>	<b>388</b>	ふたえわむし科	412
<b>無針綱 ANOPLA</b>	<b>390</b>	ねずみわむし科	412
原始紐虫目 Protonemertini	390	ふくろわむし科	414
ケファロツリックス科	390	つぼわむし科	415
古紐虫目 Palaeonemertini	390	<b>腹毛綱 GASTROTRICHA</b>	<b>424</b>
ツブラヌス科	390	毛遊目 Chaetonotoidea	425
フブレヒト科	391	いたちむし科	425
異紐虫目 Heteronemertini	391	帯虫目 Macrodasyoidea	428
パセオディスクス科	391	おびむし科	428
リネウス科	392	<b>線虫綱 NEMATODA</b>	<b>429</b>
<b>有針綱 ENOPLA</b>	<b>396</b>	<b>真線虫亜綱 EUNEMATODA</b>	<b>431</b>
針紐虫目 Hoplonemertini	396	エノプルス目 Enoploidea	431
単針紐虫亜目	396	エンケリジア科	431
エムプレクトネマ科	396	クロマドラ目 Chromadoroidea	431
プロソロクムス科	398	クロマドラ科	431
アムフィポールス科	399	ケートゾーマ科	432
テトラステマ科	400	ドリライムス目 Dorylaimoidea	432
多針紐虫亜目	401	ドリライムス科	432
ベラゴネメルテス科	401	毛頭虫目 Trichuroidea	433
ホソオヨギヒモムシ科	401	鞭虫科	433
ドレパノフォルス科	401	毛細線虫科	433
蛭紐虫亜目	401	旋毛虫科	433
ヒモビル科	401	雌内雄虫科	434
<b>袋形動物 ASCHELMINTHES</b>	<b>402</b>	膨縮線虫目 Dioctophymoidea	434
<b>輪虫綱 ROTIFERA(=ROTATORIA)</b>	<b>404</b>	腎虫科	434
二性亜綱 Digononta	406	ラブリチス目 Rhabditoidea	434
ひるがた目 Bdelloidea	406	ラブリチス科	434
ひるがたわむし科	406	小桿線虫科	435
<b>単性亜綱 MONOGONONTA</b>	<b>407</b>	ジプロガスタ科	435
まるさやわむし目 Flosculariacea	407	円虫目 Strongyloidea	435
まるさやわむし科	407	円虫科	435
てまりわむし科	407	毛線虫科	437
みつうでわむし科	408	鉤虫科	439
みじんこわむし科	408	交合線虫科	440
ひらたわむし科	409	ディアファノケファルス科	440
はなびわむし目 Collothea	409	毛様線虫目 Trichostrongyloidea	441
はなびわむし科	409	毛様線虫科	441
遊泳目 Ploima	409	ヘリグモンゾーマ科	443
		ディクティオカウルス科	444
		擬円虫科	444
		鯨虫目 Oxyuroidea	445
		鯨虫科	445

異形蛭虫科	445	キクロラーゲ亜目	467
頭膜蛭虫科	446	きよくひちゅう科	467
蛙蛭虫科	446	鯉曳虫目 Priapulida	467
スブルラ目 Subuluroidea	446	えらひきむし科	467
スブルラ科	446	<b>鈎頭虫綱 ACANTHOCEPHALA</b>	468
ヘテラキス科	446	古鈎頭虫目 Palaeacanthocephala	468
カトラニア科	447	ほそはしこうとうちゅう科	468
蛔虫目 Ascaroidea	447	たけいこうとうちゅう科	469
ゲーチア科	447	ながはしこうとうちゅう科	470
アニサキス科	448	とげはしこうとうちゅう科	470
蛔虫科	449	くびれこうとうちゅう科	472
チレンクス目 Tylenchoidea	451	始鈎頭虫目 Eoacanthocephala	472
チレンクス科	451	しんこうとうちゅう科	472
ホプロライムス科	452	原鈎頭虫目 Archiacanthocephala	472
ネオチレンクス科	453	すくなかぎこうとうちゅう科	472
ヘテロデラ科	453	<b>曲形動物 KAMPTOZOA</b>	473
クリコネマ科	453	内肛綱 Enloprocta	474
チレンクルス科	454	足胞目 Pedicellinida	474
アフレンコイデス科	454	ロクソソマ科	474
カマラス目 Camallanoidea	455	足胞科	474
カマラス科	455	<b>星口動物 SIPUNCULOIDEA</b>	476
ククラヌス科	455	星虫綱 SIPUNCULOIDEA	478
リクツラリア科	456	星虫目 Sipunculida	478
蛇状線虫目 Dracuncuroidea	456	ほしむし科	478
蛭状線虫科	456	たてほしむし科	483
蛇状線虫科	456	<b>環形動物 ANNELIDA</b>	485
ドラクンクルス科	456	原始環虫綱 ARCHIANNELIDA	487
旋尾線虫目 Spiruroidea	457	原始環虫目 Archiannelida	487
旋尾線虫科	457	いいじまむかしごかい科	487
四溝線虫科	459	むかしごかい科	488
アクアリア科	459	ディノフィルス科	488
頭節線虫科	459	ほらあなごかい科	488
顎口虫科	461	<b>多毛綱 POLYCHAETA</b>	489
胞翼線虫科	461	遊在目 Errantia	493
テラチア科	462	こがねうるこむし科	493
ヘドルリス科	463	うるこむし科	493
糸状虫目 Filarioidea	463	ほがたうるこむし科	496
セタリア科	463	のらりうるこむし科	497
糸状虫科	463	たんざくごかい科	497
無肛線虫科	464		
<b>線形虫綱 NEMATOMORPHA</b>	465		
はりがねむし目 Gordioidea	465		
ざらはりがねむし科	465		
はりがねむし科	466		
<b>動物綱 KINORHYNCHA</b>	467		
とげかわ目 Echinoderes	467		



うみけむし科……………	498	いとみみず科……………	541
けはだうみけむし科……………	498	ひめみみず科……………	542
さしばごかい科……………	499	新貨毛目 Neoligochaeta……………	543
うきごかい科……………	500	およぎみみず科……………	543
ゆめごかい科……………	501	ひるみみず科……………	544
やむしごかい科……………	501	ながみみず科……………	545
およぎごかい科……………	501	じゆずいみみず科……………	546
おとひめごかい科……………	502	ひもみみず科……………	546
かぎごかい科……………	503	つりみみず科……………	546
しりす科……………	503	むかしふとみみず科……………	548
ごかい科……………	505	ふたつみみず科……………	548
しろがねごかい科……………	508	ふとみみず科……………	548
ちろり科……………	509	<b>蛭綱 HIRUDINEA</b> ……………	564
にかいちろり科……………	510	吻蛭目 Rhynchobdellida……………	566
ななていそめ科……………	510	グロンフォニ科……………	566
いそめ科……………	511	うおびる科……………	569
きほしいそめ科……………	513	顎蛭目 Gnathobdellida……………	571
せぐろいそめ科……………	513	ヒルド科……………	571
びくいそめ科……………	514	やまびる科……………	572
のりこいそめ科……………	514	咽蛭目 Pharyngobdellida……………	573
<b>定在目 Sedentaria</b> ……………	514	いしびる科……………	573
ほこさきごかい科……………	514	<b>吸口虫綱 MYZOSTOMIDA</b> ……………	575
すびお科……………	515	吸口虫目 Myzostomida……………	575
もろてごかい科……………	518	すいくちむし科……………	575
つばさごかい科……………	518	<b>蛭綱 Echiurida</b> ……………	576
みずひきごかい科……………	519	有血管目 Echiuroinea……………	578
はぼうきごかい科……………	520	きたゆむし科……………	578
とのさまごかい科……………	521	ぼねりむし科……………	580
おふえりあごかい科……………	521	無血管目 Xenopneusta……………	581
だるまごかい科……………	522	ゆむし科……………	581
いとごかい科……………	523	<b>触手動物 TENTACULATA</b> ……………	582
たましきごかい科……………	523	<b>簪虫綱 PHORONIDEA</b> ……………	584
たけふしごかい科……………	524	簪虫目 Phoronidea……………	584
ちまきごかい科……………	525	ほうきむし科……………	584
かんむりごかい科……………	525	<b>苔虫綱 BRYOZOA</b> ……………	585
うみいさごむし科……………	526	裸喉亜綱 Gymnolacmata……………	589
かざりごかい科……………	526	円口目 Cryptostomata……………	589
ふさごかい科……………	526	関節亜目……………	589
けやり科……………	528	ひげこけむし科……………	589
かんざしごかい科……………	530	管孔亜目……………	590
うきながむし科……………	532	きくざらこけむし科……………	590
<b>貧毛綱 OLIGOCHAETA</b> ……………	533	くだこけむし科……………	590
原始生殖門目 Plesiohora……………	537	ほそくだこけむし科……………	591
あぶらみみず科……………	537	ほうきこけむし科……………	591
原始貧毛目 Archiligochaeta……………	537		
みずみみず科……………	537		